

令和6年度すくすく泉事業有識者懇談会 委員事前質問一覧

【質問の観点】

(1) 事業の実績 (2) 事業の効果 (3) 事業の継続性 (4) 事業の発展性 (5) 事業の安定性 (6) 補助団体の継続性 (7) 補助団体の安定性

質問	団体からの回答
令和6年度報告、令和7年度計画に、「外国人への対応」に関する記載があるが、現状でどのくらい外国籍の方の利用があるのか。 言葉が通じない場合のコミュニケーションなど具体的な対応はどのように行っているのか、課題はあるか伺いたい。	現時点の利用では、一時預かりが月に1～2組ほど。両親のうちどちらかが日本人、または、日本語でのコミュニケーションができる方たちの利用のみなので、なにかなっている。少し理解が難しい場合は、英語のできるスタッフが説明。少数だが、通訳できる方を連れての利用登録もある。ひろばは月に3～4組ほど。英語のできるスタッフや利用者、韓国語、中国語は翻訳アプリを使用(たいていご本人が持つてくる)。現状問題なさそうだが、やはり言葉の問題で、一時預かりやひろばの利用をしていない方もいるのでは?と想像し、契約事項や利用の方法などの英文リーフレットの作成を準備中。
今年度より始めた定期利用枠(多様な他者との関りの機会の創出事業)について、常に枠が埋まっている状況とのことだが、事業の内容(預かり期間や時間、子どもの過ごし方、保護者とのかかわりなど)と今後の課題を伺いたい。	「はーとぷらん」という名称。保育園や幼稚園に所属していない0～2歳を対象に、週に1回4時間まで、6か月までの利用。(その後再申し込みも可能)月～金の8:30～17:30の間に各曜日1～2名。子どもとの過ごし方は他の一時預かりと変わりなく一人ひとりに合わせたものだが、できるだけ同じ保育士が担当するようにシフトを組み、継続して記録をつけながら、保護者と話をしながら、悩みや成長の喜びなどに寄り添った一時預かりをしている。